**Ⅰ　学校研究全体計画**

**１．研究主題と主題設定の理由**

**（１）研究主題**

**主体的に考え，ともに学び合う子の育成　～学びの連続性を目指して～**

**（２）主題設定の理由**

本校はこれまで，「授業づくり」，「学習基盤づくり」を研究の重点として進めてきた。昨年度の成果として，授業づくりにおいては，単元構想シートを使用することでつけたい力やゴールの姿が明確になり，児童の意欲を高めること，学習基盤づくりにおいては，児童とともに立てた学習計画を掲示することで，児童が単元の見通しをもって学習に取り組むことができたことがあげられる。その一方で，学ぶ意欲が考えを広げたり深めたりする力や，つけた力を活用する意欲に結び付いていない点に課題が残った。そのため，意欲をさらに高めるとともに，児童の意欲やつけた力を発揮できる場の工夫が必要である。また，児童から多様な考えを引き出し，考えを深める発問や手立てについても，児童の実態やねらいに合わせて研究を進めていく必要がある。

以上のことから，今年度は昨年度に引き続き，研究主題を「主体的に考え，ともに学び合う子の育成」，副題を「学びの連続性を目指して」とし，国語科全体を通して研究を進めていくことにした。今年度は，特に，単元を通してねらいとする力がついたか，児童が主体的に学習に取り組むことができたかどうかを児童の姿や成果物，単元の振り返りから検証していくとともに，授業の中では，児童の考えを深める学び合いができたか，そのための教師の発問や手立てはどのようなものが効果的であったかを中心に研究を進める。また，教師，児童ともに学期末には，学び合いやその手立てについて振り返る場を設け，めざす児童像，めざす授業像に近づけていく。友達との対話の中で自分の考えと比べたり繋げたりしながら表現し，互いの思いや考えを認め合い，そして，「わかった」「できた」という学びへの意欲や自分の考えの変容を，「もっと～がしたい」「次はこれが知りたい」と自らの学びを連鎖させていく児童を育みたい。

３－１－１

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| めざす児童像 | つけたい力を明確にし，ねらい・ゴールの姿を設定した授業 | めざす授業像 |
| 主体的に考える子  ・授業規律を守る子  ・「話したい，読みたい，聞きたい，書きたい」という意欲をもち，習得したことを生かして「伝えたい，まとめたい」など主体的に取り組む子  ・自分の考えを持ち進んで表現する子  ・自分の変容を振り返り，成長を自覚して次に生かそうとする子 | 主体的に考えたくなる授業  ・学習基盤づくりを行い，規律のある授業  ・児童の学ぶ意欲を引き出す課題を設定した授業  ・児童が「読みたい」と目的意識をもって音読をする授業  ・児童が「考えたい，話し合いたい」と思える，発問や授業展開を工夫した授業  ・自分の考えがもてるように，物語や説明文の読み取りが習得できる授業  ・児童が「まとめたい」と思える，単元で付けた力を生かせる言語活動を単元のゴールに設定した授業 |
| ともに学び合う子  ・友だちや教師の意見や考えを理解して聞ける子  ・相手を意識した声の大きさで，わかりやすく話す子  ・友だちと話し合い，考えを深める子 | ともに学び合う授業  ・一人一人が思考する場や表現する機会を設定した授業（単元の二次で）  ・目的意識・相手意識をもたせた話し合いを設定した授業  ・考えを深めるための問い返しやゆさぶりを吟味した授業 |

**２．研究の内容**

**（１）授業づくり**

①つけたい力を明確にした単元構想

・単元構想シートを活用し，学年や単元におけるつけたい力の明確化を図る。

・カリキュラムマップを活用し，年間を通した単元構想を練る。

　　②木場小スタンダードの実践

　　　年度初めに職員で共通理解を図り，児童に授業の流れの定着を図り，見通しをもって授業を行う。

　　　・導入…児童の学習意欲を高め，ねらい達成のためにふさわしい学習課題を設定する。

考えを持たせるための意図的なしかけを工夫する。

　　　・展開…筋道や根拠を明確にし，考えを広げ深めるための問い返しやゆさぶりの発問を工夫する。

　　　・終末…学びの実感や達成感を味わわせ，次の課題につなげるふり返りの活動を行う。

③めざす授業像の共有

　・１学期に６年生によるデモンストレーションを行い，学び合いについて目指したい姿を共有し，各学年に応じてめあてを設定し，実践する。

・「学び合うための話し方・聞き方」について，毎月のテーマを提示し，児童の実態に合わせて各学年で目標を立てる。月末には，達成状況を振り返る。

　・学期に１回「子ども授業参観」を行う。デモンストレーションで共有した目指す授業像に近づけているか，児童同士で確認する。視点を与えることで，参観学年の良いところを見つけて伝え，自分の学年の良いところを見つけ，もっと頑張りたいところを見つけたりすることで授業をつくる主体者としての児童の意識を高める。

**（２）学習基盤づくり**

　　①基礎学力の定着

　　　・国語，算数においては全学年共通したドリルを使い，経年比較と基礎基本の定着を図る。

　　　・国語科でつけた書く力，話す力を他教科で活用することにより定着を図る。

　　　・家庭学習の内容を全学年でそろえ，学年に応じた指導をすると共に家庭学習の習慣化を図る。

　　　・思考の変容や学習内容が分かりやすいノート指導をし，「ノート名人」の掲示を行う。

　　　・学期に１回，漢字・計算検定を行い，漢字を読み書きする力・計算をする力の定着を図る。

　　②学習環境の整備

　　　・「木場小スタンダード」を掲示し，目指す姿を共有する。

・「学び合うための話し方・聞き方」について，学年で立てた目標を掲示し，目指す姿を共有する。

・児童と共に立てた学習計画を掲示し，見通しをもって学習を行う。

３－１－２

　　③教師の授業力向上

　・各学年１回の研究授業を行う。指導案の作成前には，単元構想シートをもとに学年部会で話し合う。また，全員で事前に模擬授業を行うことで，学習課題や展開，発問等の精査を図り，職員の授業づくりへの意識を高める。

・研究授業後には授業整理会を行い，学習課題や本時の目標達成状況とその要因の検証を行うとともに成果と課題を明らかにし，次の研究授業に活かす。

・毎学期末に授業改善チェックを用いて，自身の授業をふり返る。検証をもとに，改善のための取り組みを全職員で共通理解・共通実践する。

　　　・他校の研究授業，その他の研修に参加し，授業力・指導力を高める。校外研修後は，他教職員に学んだことを還元する。

　　　・全学年で授業交流を行い，授業づくりや指導力の向上を目指す。

　　　・計画的にOJTを行い，教職員同士で学び合うことで，指導力の向上を目指す。

**３．研究全体構想図**

**教育目標**

豊かな心と確かな学力を備えた，心身ともにたくましい児童の育成。

研究主題

**主体的に考え，ともに学び合う子の育成**

**～国語科を中心として～**

**他教科での言語活動の充実**

**授業づくり**

➀つけたい力を明確にした単元構想

②木場小スタンダードの実践

③めざす授業像の共有

**学習基盤づくり**

　　➀基礎・学力の定着

➁学習環境の整備

③教師の授業力向上

温かい学びの集団

・生徒指導の３機能を生かした学級づくり（自己決定、自己有用感、共感的人間関係）

・縦割り活動や異学年交流を通して，互いの良さを認め合い高め合う集団づくり

３－１－３

**４．研究組織**

指導主事

外部講師

＜研究全体会＞

＜高学年部会＞

４・５・６年

養教・教頭

＜低学年部会＞

１・２・３年

ののはな・教務

３－１－４